

「山・湿原・海岸湖沼の生物多様性とその保全を学ぶ」

今年の自然保護大学では自然保護の重要なキーワードである生物多様性をテーマに取り上げました。オホーツク海紋別のコムケ湖の様々な渡り鳥、標高900m付近にある雨竜沼高層の多様な生態系、花の名山としても知られている夕張岳の保全について調査研究をされている専門家にお話しをしていただきます。

貴重なお話しと共に、中々、訪れることが少ない広大な自然の鮮明な映像(スライド)をぜひ楽しんでいただきたいと思います。ご案内いたします。多くの方々の受講をお待ちしております。

大館 和広氏
(もんべつ かいはつ くらぶ代表)

「コムケ湖の鳥は何処へ行く」

日本に渡来する渡り鳥は、何処から来て何処に行くのでしょうか。日本の北の入口(出口)オホーツク海岸中央部に位置するコムケ湖で見られる渡り鳥のルートを、25年間の標識調査で得られたデータをもとに考察します。

佐々木 純一氏(雨竜沼湿原を愛する会副会長)

「ラムサール条約湿地・雨竜沼湿原の保全と利活用」

雨竜沼湿原は池塘複合体の発達と水生植物が顕著で、山地湿原では規模が大きな高層湿原で、種多様性が最も高い湿原です。2005年にラムサール条約湿地となり、私たちの27年間の活動を通して更なる湿原の保全と利活用(ワイズユース)の現場をお話しします。

日時: **11月25日(土)** 13:00~18:00

会場: **北海学園大学** 6号館C-31教室
(地下鉄東豊線「学園前」下車)

参加費: 一般2,000円 学生1,000円

定員: 50名

佐藤 謙氏(北海学園大学名誉教授)

「夕張岳の植物を守るために」

夕張岳の自然は、古くから高山植物の盗掘や踏みつけ、近年はエゾシカ食害や生育地の自然な変化(崖地の崩壊)など、人間または自然の要因による変化が明らかです。夕張岳の自然、とくに植物についてお話し、その保全について一緒に考えたいと思います。

主催: 一般社団法人北海道自然保護協会

☎011-251-5465 Fax011-211-8465

Eメール: info@nc-hokkaido.or.jp

本チラシは北海道新聞野生生物基金より助成をうけて作成